5	投稿者 深山隨園	タイトル悪依	評価者 一般審査員A	点数 各項目20点 怖さ 16	三満点 鋭さ 15	新しさ 15	ユーモアさ	意外さ 15	証はあるのでしょうか。シロに憑かれていて変になっていたから会社を休んでいた
١	深山隨園深山隨園	憑依 憑依	一般審查員A 一般審查員B 一般審查員C	5	5	5	6	5	証はあるのでしょうか。シロに憑かれていて変になっていたから会社を休んでいたのであれば、復帰できるのでしょうが、その前から休職していたのであれば、会社いけるようになるとは限らないのでは? マザコンに犬の幽霊が憑いて会社にいけなくなってましたって話? そうか、そういう話か。ただ、それだけなのか? まず親父の方がヤバいですね。島子は取り憑かれてるなら正常ですね。お盆なの仕事を休んでいて、お盆明けに復帰するって客商売ですかね。話の中にいろいろしぶいた方がいい部分がありますね。
									定、面白かったです。愛犬が憑依していたというのも、恐ろしいよりむしろ微笑ましく、温かい、気持ちになりました。個人的に好きな設定です。ただ、社会人の息子が 親にペったりというのは、少し違和感があるな、と思いました。シロが主人公に懐し ていたことを強調したかったのだとは思いますが、母親にペッタリという部分は削修 しても、遜色はないと思います。文章もスッキリして良いのではないでしょうか。また、シロがこのタイミングで息子に憑依するきっかけになった事象が盛り込まれてしるとリアリティがあってよかったのではないかと思います。例えば、シロの写真を息子が見つけてきた、とか。
5	深山隨園深山隨園	憑依	一般審查員D 一般審查員E	14		15	15		79 最後の一文で不気味さが倍増しました。子どもが憑りつかれる、という状況の先入観を上手くついた作品でした。二回目読むと違う怖さが味わえる内容でとてもよかたです。 80 最後の一文がとても良いですね。つい無意識に子どもの姿の息子を想像していまた。読了後に、時々赤ちゃん返りをしている点から、歪な家族なのかも…と深読みてしまいます。左足を引きずっているものも、シロが憑いているのではなく、もしかして暴力…?と歪み考察で沼る何度読んでも楽しめる作品になついると思いました。
5	深山隨園	憑依	一般審査員F	16	16	17	16	18	復帰できるだろう、という文面で、息子が社会人だったところが意外でした。動物霊に取り憑かれるようなお話も結構あると思いますが、それは狐憑きだったり、何か当たりな行為をした為に祟られる、といった話が多い中、過去に飼っていた愛犬に族が取り憑かれる、というのはそれも意外といえば意外でした。ただ、愛犬が亡くなってから十年も経ってから取り憑くというのは現実的には殆ど無いんじゃないかな、とは思います。お盆にはあの世から霊が現世に戻って来る、とはよく言います
5	深山隨園	憑依	一般審査員G	18	17	20	17	19	ました。犬みたいな動きの前に、母親にべったりってどういうこと? 赤ちゃん返り、ハイハイ? 本当に怖いのは息子なのでは?という、一つ解るとドミノ倒しのように、恐ろしさが出てくるところは面白かったですね。恐怖の中でも嫌悪的な恐ろしさといか、生理的に理解ができない怖さがあります。これまで審査している中で初体験の
5	深山隨園	憑依	一般審査員H	3	3	6	5	6	感覚だったので新しさの点数が跳ねました。  23 怖さ、不思議だとは思いますが、少なくとも怖くはないです。鋭さ、最初に息子の年齢を仄めかしておいても良かったのでは?このまま読むと赤ん坊か幼児の行動か思い、不気味ではありますが、鋭さに通じるかと言うと、、です。新しさ、飼っていたが息子に取り憑いたのが、奇行の原因という面白い仕掛けですね。ただ、怪奇譚は捉えるならば、最後の一文により上手く繋げられると良かったのにな、と思いましたユーモアさ、四つん這いの息子という何とも言い難く奇妙で不気味な場面から始まる。ある種のユーモアは確かにあります。ありますが、、で、結局何だったの?とい
5	深山隨園	憑依	一般審査員I	9	10	10	10	12	印象が拭えません。広く一般に読まれる事を前提にするならば、読み手の読解力。 みな仕掛けは極力避けた方が良いとは思いますね。意外さ、取り憑くくらいですから、生前何か「息子」に何か虐待でもされていたのかと思いきや、でした。そういう意味で意外ではありました。  51 この掌編、とてもパランスが良くて上手いですね。まず「息子の奇妙な行動」が淡々と描かれ、読者がじわじわ不安を感じ始める導入が丁寧です。特に"四つん這い" "スープをびちゃぴちゃ"など、動物的な仕草の具体性が効いていて、怖さとユーモ
5	深山隨園	憑依	一般審査員J	15	16	15	17	15	が同時に立ち上がっています。そこから「左足を引きずる」「に気づく一瞬の鋭さがす 常に良く、物語全体のトーンがスッとホラー方向へ傾く転換点になっています。さら "シロ"という名前が出た瞬間、怖さよりもどこか優しい気配が漂うのが巧みで、ホ ラーとノスタルジーが共存しているのが魅力的です。オチがお盆の終了とともに戻 る、という静かな終わり方も余韻があり、読み終わった後に温かさと不思議さが同 に残る佳作になっています。 78 愛犬が取り憑いたという傍迷惑な話で面白かった。そして、旦那さんは、気がつい
No	投稿者京朔太郎	タイトルクローン人間	合計 評価者 一般審査員A	128 怖さ 16	130 鋭さ	137 新しさ	133	144 意外さ 16	はかったと思う。 672 合計 書評
	京朔太郎	クローン人間	一般審査員B 一般審査員C	7 18	7 16		7	6	の中に嫌いな一面を持っていて、時にはそれが自分にとって大きくなって、自分をしたくなるのかもしれない。哲学的に深く読むことはできる。ただ、そこまで考えて作ったようには思えない、かな。知らんけど。  33 クローンを作って殺す感覚を味わいたいサイコパス感はいいんですがどうでもいいて言われそうですが数十年って言い回しが普通は使わないなと思っちゃいました。  80 ここまで短い文章の中に、こんなに濃い恐怖のエキスを凝縮したこの作品、素晴らいと思いました。人間の身勝手さを表現した人怖、何度も読み返してしまいました。
2	京朔太郎	クローン人間	一般審査員D	12	15	16	18	16	その度に恐ろしさが込み上げてきます。一つ気になったのは、クローン人間を殺すとが合法的な殺人だと表現されていること。果たしてそうなのでしょうか。クローンに関する法律はもちろん整えられてはいないと思いますが、だからといってクローン、間の殺人を合法的と捉えていいのか?主人公のこの思考すら人怖を強調するために盛り込まれたとしたら、作者の恐怖に対する飽くなき探究心に拍手を送ります。77 超短編でしたがブラックユーモアたっぷりな作品で面白かったです。クローンをそういう使い方する視点が新しかったです。ただ、短すぎて本人かクローンどちらがしゃ
	京朔太郎	クローン人間	一般審査員E	15	15			15	がとても面白い作品でした。「これが人を刺す感覚か!」というセリフの冷たさと不っ さいいですね。クローンというテーマの「同一人物同士の対峙」が、短い文量の中に うまく凝縮されていると思います。文字数に余裕があるので視点がぶれる瞬間をも 一段階濃く描くと、恐怖の落差がおきて良かったかなぁ…と感じました。 89 話としては短いですが、非常に怖いですね。発想がもう怖い。まあ、他人を犠牲に
	京朔太郎	クローン人間	一般審査員G	13	12				る事を考えたらまだましか、と思えなくはないですが、そんな理由でクローン人間を 作ろうとする事がヤバいですね。クローン人間を作る話は他にもあると思いますが 合法的に殺人を犯す為に自分自身のクローンを作り出す、というのは新しいと思し ました。意外性も高いです。一ヶ所だけ、ようやく私のがクローンが…という文で、ま のがの "が、、がミスなのか、不要な接続詞として入っているのが残念でした。そこ 鋭さの評価が若干低くなってしまいました。
2	京朔太郎	クローン人間	一般審査員H	4	4	6	4	5	要か否か、そういう倫理的にどうなのかという部分でも感がさせられるというか、そいうところが個人的に気になります。実際に死んだ死体はどうにか処理されるわけですから、それの処理もどうなるのか。半端に処理したのでは事件になってしまう。うな気も。怖いというより、考察が色々出てくる方に気持ちが持っていかれます。ほかにないSF要素が面白いとは思うのですが、怪談のコンテストとすると少し怖さが弱いかなと思いました。  23 怖さ、全く感じられませんでした。嫌な話ですが、怖くはありません。鋭さ、サイコパス、マッドサイエンティスト?であろう主人公の背筋が凍るような表現が欲しいです
2	京朔太郎	クローン人間	一般審査員	10	11	11	12	11	新しさ、クローンを作った目的には吃驚ですが、トータルで見ると新しさはあまり無ですね。ユーモアさ、主人公の馬鹿げた言動、思考、です。ただこれも物語全体として見れば、ユーモアとまでは言えない気はします。意外さ、クローンを作った目的、の部分ではそうですね。しかし、狂気を描くならもう少し明確に、丁寧に書かないと唐突、無理筋に感じてしまいます。
									「これが人を刺す感覚か!」という異常なテンションへの急旋回が気持ちよく決まっている。 怖さは短いぶん説明がなく、動機が「合法的に人を殺すため」という狂気一本勝負 だからこそ鋭さとユーモアが際立って、悪い意味でなく"ひどい話"に振り切れている のが快感。意外性も強く、ここまで短くて起承転結すべて暴力でねじ伏せるタイプに 珍しい。
	京朔太郎	クローン人間	一般審査員J	17	18	137	137	15	ていて面白かった 668
9	投稿者 やま	タイトル 愛孫	評価者 一般審査員A	<b>怖さ</b> 16	鋭さ 15	新しさ 15		<u>意外さ</u> 15	合計 書評 78 こちらも、安直すぎる。最終選考における平均のような怪談。面白くないわけではないのだが、このパターンの怪談はこのコンテストでも鉄板なので、「またこのパターかよ」となる。しかも、年齢に関する叙述トリックが多い。確かに、面白いからよく使れているのだと思うのだが、みんなが使いすぎると、面白みが薄れてしまう。ただ、母乳を与えているところを想像すると、クスリと笑える部分はあるので、ユーモアは少しあると思う。ただ、「怪談」のコンテストにおいて、そこは本質ではない。
	やま	愛孫	一般審査員B 一般審査員C	7 15	7 15		7 15	6 18	う片方は飛び抜けてないと面白くないです。  78 祖母と孫の関係性が恐ろしいです。母乳が出ない乳首を吸わせたとは、いったいる人な意味があったのでしょうか。成人男性を引き取るとは、その男性にはなにか自分で生計を立てられない理由があったのでしょうか。謎が謎を呼びます。長終的に孫が祖母を殺してしまったのは、祖母の異常な愛情(ある意味性的虐待?)に耐えかねたのか、それとも元々凶暴的な性格だったのか。程よく考察の余地が残されて
	やま	愛孫	一般審査員D 一般審査員E	11	12	13		10	いて、バランスの良い作品だと思いました。題名の付け方もスッキリとしているけどテーマが盛り込まれていて、とても良かったです。  59 読んでいて苦しくなりました。最後のオチに持っていくために、初めに「子どもが幼い」という印象付ける描写があるのだと思いましたが、どれだけ小さい子どもでも祖母がおっぱいをあげようとするのはそれだけで嫌悪感を催す行為なのでその発想不気味でした。  80 きしょこわい。他の作品に比べて圧倒的な気持ち悪さで尖っています。「母性の暴
	やま	愛孫	一般審査員F	18	17			18	走」が後半の展開に向けてじわじわと効いてますね。特に「おっぱいをあげた」とい 一文が、物語全体の狂気を底上げしたと思います。伏線の使い方がとても上手い 談だと思いました。  87 怖いというよりも気持ち悪さが勝ってしまう、そんなお話。これも先入観によるミス リードを誘い、最後に意外な真実を明かされる、といった形のお話になりますが、ル さな子供、それも母乳というキーワードや寝かしつける、というような言葉からまだ。 常に幼い、赤ちゃんに近いような孫、というのをイメージしながら読んでいましたが 実は二十歳の成人だった、というのが意外であり、気持ち悪いところです。Aさんか
9	やま	愛孫	一般審査員G	13	18	17	10	19	孫に殺されることになってしまった理由はわかりませんが、恐らくは間違った愛情で示し方によるものであったのではないでしょうか。  77 色々気になるところはありましたが、まず娘さんは本当に病死だったのか?というでしている。 まちゃんプレイにしてもお祖母さんのを吸って母乳が出ないと怒る異常性。 気持ちが引くというか、嫌悪感の強い恐怖ですね。 生理的に理解したくないというか、理解の範疇を超えている話というか。 ただ、インパクトを強くしたいという思いを出しすぎているかなと思いました。 怖いというよりは気持ち悪いというのが勝ってしまっ
9	やま	愛孫	一般審査員H	6	5	6	4	4	すぎているかなと思いました。怖いというよりは気持ち悪いというのが勝ってしまっので、怖さの得点は控えめです。どこを一番怖くしたいのかに焦点を当ててみるとう少し怖くなったかなと思います。  25 怖さ、怖いというよりひたすら気持ち悪いです。引き取られた孫もお祖母さんも。鋭さ、は少なくとも感じられません。緊迫應が無いです。新しさ、ここもあまり。予定調的だと感じます。細かい設定でなく大元の部分が「よくある話」になっていると思いす。ユーモアさ、要素がどこにあるのか理解出来ませんでした。意外さ、まぁ、子供
9	やま	愛孫	一般審査員I	10	11	10	11	11	だと思っていたらなんと、成人男性。という点が肝なんでしょうが、これも狙いすぎす。結果、よくあるオチに。文章の簡潔化は悪く無いですが、ストーリーに奇抜さをせようとして上手くいっていない典型的な例だと感じます。  53 この短編は、一見ほのぼのとした孫との日常描写から突然、衝撃的な結末に転じ構成が印象的です。Aさんの献身的な姿や、母親代わりとしての微笑ましい日常指写が読者の安心感を作り、そのギャップで恐怖が倍増します。最後の一文で「孫」、成人男性であることが明かされる瞬間、平和な日常が一転して異常事態に変わる
No	やま 投稿者	要孫	一般審査員J 合計 評価者	18 129 怖さ	16 136 鋭さ	131 新しさ	129	129 意外さ	意外性は鋭く、ホラーとしての効力が高いです。恐怖と衝撃が短い文章に凝縮されており、余韻も強い作品です。  85 薄気味悪い話なのか、認知の問題なのかがよくわからない話で、最後の年齢がオープンになったところが、気持ち悪さを強調して、よかったと思う。  654   舎計  書評
4	赤戸青人	しごおわ	一般審查員A	14	14	14		14	70 これは怪談じゃなくない? なんの仕事かわかんないから。デビルハンターなのかしれないし、エクソシストなのかもしれないし、悪人を殺す殺し屋なのかもしれないし。さすがに情報を絞りすぎて、意味不明になっています。アニメのキャラのセリフだって言われても納得するし、あるいは全然違うセリフだって言われても納得するい、ずれにしても、文脈によって意味が全然変わるので、文脈がわからない以上、評価できない。  27 怪談というには内容がないような気がします。くらいつまらないです。学生のイジメ
	赤戸青人	しごおわ	一般審査員B	17	15			16	現場みたいな感じなのに仕事って言ってるのがまた変でしたね。人を殺す怖さを出すならコンピニ行って来るくらいの気軽な方がまだ、怖くなりそうです。
	赤戸青人赤戸青人	しごおわ	一般審査員D 一般審査員E	10	12	12		12	が難しいかもしれませんが、もし殺し屋なら最後に一行「わたしは殺し屋」と入れる けでリアリティが出たのではないかと思います。  56 これだけの短編であれば、もっとキレのある言葉で一気にたたみかけるような台詞 で綴っていただきたかったです。鋭さ、ユーモアに振り切れる内容だったと思うので もったいない。  75 テンポの良さが際立っていて、冒頭から一気に読者を引き込むスピード感がありま すね。主人公の狂った情勢と、仕事終わりのルーティンの異常な優先順位が生む。
	赤戸青人	しごおわ	一般審査員F	18	18	18		18	値観の崩壊がとても魅力的でした。場面描写を一切入れず、モノローグだけで状況を成立させている点も私は好きです。  89 これも短い作品ですが、怖さ、鋭さ、新しさ、意外さ、ユーモアさ、何れも高く詰め込まれたお話でした。最初、読んでいて、明るくポップな感じに話が進んでいくのにううん。と共感を覚えるものの、最後の一文で一気に恐怖へと落とし込む、そんな展に作者さんの文才を感じました。このお話の主はサイコパスですね。殺しの仕事との後の楽しみのギャップが凄いです。  83 殺し屋的な話なのかなと思ったんですけど、早く帰ってやることがかなり一般的な
	赤戸青人	しごおわ	一般審査員G	18	16	15	17	17	考なところから、昨今話題となっている間バイトのような話と考えるととても怖くなりした。どちらの意図で描かれているのかはわかりませんが、人を人とも思っていな存在がすぐ隣にいるのではないか?ということを考えさせられるところが鋭さの得りに繋がっています。脈な話系としては簡潔でとても良かったです。ただ、解釈が分れそうかな?ということも考えられたのでそこは少し気になりました。  30 怖さ、人怖系最近増えましたね。悪いとは言いませんが、心霊的な怖さが無ければ
	赤戸青人	しごおわ	一般審査員H 一般審査員I	5	5		7	7	怪奇とは言えないのでは?鋭さ、短くまとまっている分、鋭さは無いです。主人公の 残虐性をより伝わり易く入れた方が良かった気がします。新しさ、オチの付け方は 白いですね。よりコンパクトに纏めようという意図はよく分かります。ユーモアさ、ブ ラック要素はあります。意外さ、怖さポイントってそこ?という点では、意外ではあり ます。主人公が実は気がついて無いけれど、死者を殺し続けている、など何処かる の世との境界線を越えている部分があっても良いのではないかなと感じました。 52 このセリフ、軽い口調なのに内容が完全に殺意なのが最高に不気味で面白いです
									ね。まず、推し活とかコンビニ飯みたいな"普通の幸せ"を語っているのに、そのために「だから早く死ね」と平然と言い切るギャップが強烈です。 怖いんだけど、どこか会えてしまうバランスが絶妙で、ブラックユーモアとしてかなり完成度が高いと思います。 特に「寝落ちするまで観るの」という柔らかい言葉のすぐ後に殺意が続くのが、読者の思考を一瞬止める良い意外性になってます。 殺しが彼女にとって"家に帰る前の仕事の一つ"くらいの感覚なのが伝わってきて、日常と狂気が混ざり合う感じかとても印象的です。
No	赤戸青人 投稿者 京朔太郎	しごおわ タイトル 私はいない	一般審查員J 合計 評価者 一般審査員A	17 129 怖さ 15	15 126 鋭さ 16	15 127 新しさ 16	132 ユーモアさ	16 130 意外さ 15	80 人殺し側の人怖怪談という面白い切り口だった。  644  合計  書評  77 動かなくなったのでこれを機会に、ということなのか、それとも、最初から仕組まれいたのか、よくわからないが、姉が可哀想な気もするし、そうはいっても、姉がどの度の乱暴者だったのかわからないし、情報が足りているようで足りていなくて、たた
	京朔太郎	私はいない	一般審査員B 一般審査員C	6 15			5 15	5 18	度の乱暴者だったのかわからないし、情報が足りているようで足りていなくて、たた 父が何らかの洗脳をほどこして、姉が自分の存在を否定するよう仕向け、自殺ます 導いたような気はしていて、母も父がそれをできるとわかっていたのだろうと考えた 27 私の知識が足りないせいか、初めから最後まで意味が分からず怖さが伝わってき せんでした。せめて父親の背景だけでもわかったら、よかったかもしれません。 78 乱暴者の姉の性格がおとなしく変わってしまう、この設定が面白いと思いました。ま た、自分が自分でなくなったことを苦に死を選択した姉の行動は、非常に共感がで ました。設定自体はとても良いのですが、全体的に何を表現したいのかがわかりっ
	京朔太郎	私はいない	一般審査員D 一般審査員E	14	14	13		14	ました。設定自体はとても良いのですが、全体的に何を表現したいのかがわかりてらかったです。父親は黒魔術のようなものを姉に施したのでしょうか。乱暴ものがまとなしくなる、なんとなくロボトミー手術を思い出しました。物理的にではなく、精神にロボトミーのようなことを施したのでしょうか。もう少しヒントが記述されていると、もっとよかったです。想像を刺激してくれる要素が少なかったのが残念です。  72 どちらが本来の姉の姿だったのか謎が残る作品でした。両親が妹に何を隠していのかも気になります。薄暗い雰囲気の短編らしい内容でよかったです。
	京朔太郎京朔太郎	私はいない	一般審査員E 一般審査員F	15	10				だと思います。父が何かを「修理するように」呟いて姉が再起動する場面など、普遍の怪談とは異なる方向性の怖さがあり、引き込まれました。創作としては自殺とい結末が正解しゃない気もします。姉じゃない「何か」が混ざるような伏線の積み方かあっても面白かったかも。  83 乱暴者で両親も手を焼く程だった姉が、ある日突然大人しくなった。それは何かあでしょう。両親が催眠術のようなものを使って姉をコントロールし始めたのか、はたちに無的なものの力を借りたのか。何れにせよ、父親が姉をコントロールしているよ
12	京朔太郎	私はいない	一般審査員G	14	17	13	10	11	た霊的なものの力を借りたのか。何れにせよ、父親が姉をコントロールしているようですね。それでも、体は人形のように操れても、思念までは完全にコントロール出ななかったのでしょうね。それだけ自我が強かったのかもしれませんが。自分の意思動けない操り人形になってしまったら私ならどうするだろう?完全支配なら死ぬ事でえも出来ないのだろうか。そんな人形のような生き方は出来ればしたくないですね話をかけても…の文のところ、"を"、は必要ないと思います。
	京朔太郎	私はいない	一般審査員H		10	.0	.0	.,	をしたのかなとも思いました。自分が自分ではなくなってしまったかのように思えて殺してしまう人がいたこと、この手術を巡って殺人事件が起きたことも考えると私はロボトミー説を押したいと思います。「よし」というのも動物に指示をするような感じりして機械的です。もしくは何かの洗脳を受けてこうなってしまったのか? 家族の厄介者だったとしても、こんな終わり方になるはずではなかったのでは?と思いますし、この残された妹も今後こういうことをされるのではないか?という嫌な余韻の残お話でした。
	京朔太郎	私はいない	一般審査員H 一般審査員I	11	10	11	10	12	程度の怖さは感じます。鋭さ、ここも淡々と、かつ不気味な雰囲気のまま進んでい、様子がなかなか鋭さを感じます。新しさ、ここは弱いかな。これ、恐らく死者の蘇り、からの蘇った者が結局死を選ぶ、という事なんですよね。そもそも蘇りそのものが題材として新しいとは言い難いと思います。ユーモアさ、一番感じられませんでした登場人物達の感情がまるで伝わって来ないからでしょうかね。意外さ、主人公や家族がこの状況を躊躇なく受け入れている所です。  55 この話は、"家庭の中で進行する異常"の描き方がとても効いています。姉の乱暴さ
						.,	.0	12	から突然の静けさへの変化、その理由が誰にも分からないまま不気味に積み重なっていく感じが怖いですね。特に、父が姉を寝室に連れていき、何かを"ブッブ"く"場面は、何が起きているのか分からないまま異様さだけが濃くなっていって強烈です。家族として信頼しているはずの父親の行動が一番理解できないという構図が、恐怖を倍増させています。  そして、姉が残した「私はいない、私じゃないなら、死ぬ」という言葉は、乗っ取りなか、精神の異常なのか、あるいは父の関与なのか、いろいろ想像が広がる余韻を
	京朔太郎	私はいない	一般審査員J 合計 評価者	18 133 怖さ	15 129 鋭さ	16 128 新しさ		16 123 意外さ	します。説明をあえて排した構成が、余計に"家庭内の間"を際立たせた良い怪談 なっています。 82 錯乱してしまったのか、それとも、もっと怖い話なのか、わけがわからないところが 白かった。
	<b>投稿者</b> やま やま	タイトル タロウとの思い出 タロウとの思い出	評価者 一般審査員A 一般審査員B	<b>怖さ</b> 16		15	16	<b>意外さ</b> 15	77 少し安直すぎるのではないかと思った。このコンテストにおける、最終選考における 平均のような怪談。「なにがなんでもグランプリをとる!」って意気込む必要までは いが、もう少し冒険してもよかったかもしれない。意味不明な怪談で高評価を得る も難しいが、だからといって、意味が完全にわかるもので高評価をとるのも難しいと 思う。まあ、タロウが幸せだったならそれでよくねーよ!? 28 昔からありがちな、じつは人間でしたってオチは分かりやすすぎて、そこに持ってし
	やま	タロウとの思い出	一般審査員B	15					までにバレた時は急につまらなくなるのがイタイですね。  76 大を飼っていたかのように思わせて、実は飼っていたのは人だった、というオチがろしいです。この発想はなかなかできないと思います。作者の想像力に拍手を送りたいです。大小屋がどこにあったのかは文章からは判断できませんが、外だとするとリアリティが無いように感じました。流石に家の外の犬小屋に人が繋がれていたら、近所の人が放っておくはずがないからです。家の中のゲージの中で、というよな表記があったならば、他人が介入しない環境での出来事で現実味が増すのでは
	やま	タロウとの思い出タロウとの思い出	一般審査員D 一般審査員E	11	15		12	10	ないかと思いました。  61 タイトルで怪談ジャンキーはオチが読めてしまったような気がします。それでも不気味さや鋭さをもっと出せたのでは、と感じました。タイトルにあるように「思い出」としなら、もっと愛情を注いだ描写を入れていただけるとオチで怖くなったと思います。  60 穏やかな回想から一転、「髪の毛」の一文で読者が気づく構図が効いていて、静かな恐怖へ落とす流れはとても上手だと感じました。ただ、その完成度ゆえに、よく見る型に収まってしまい、物語全体がどこか既視感に寄っている点も少し惜しい印象
8	やま	タロウとの思い出	一般審査員F	17	17	18	16	18	です。もう一段踏み込んだ違和感や、伏線で個性がでると良いですね。
	やま	タロウとの思い出	一般審査員G	13				16	年齢、主さんの年齢が気になります。  75 これは本当に胸糞悪い話だなと…。親戚の家からもらわれてきた、最初は慣れずい吹えていたというところを考えると、もらわれてきたのは幼い子なのかなと推察しまた。そしてペットのように扱われ、最後は無残にも白髪頭になって死んでしまう、教がないですねー。数日なんとなく思い出してしまいそうな厭なお話です。怖いというり心に刺さるお話でした。短い中に色々な想像が浮かんでくるような余韻があり、『かったと思います。
	やま	タロウとの思い出 タロウとの思い出	一般審査員H 一般審査員I	8	·	<u> </u>	3	J	で読み返すと鋭さも感じらればします。新しさ、動物前提で読んだら実は、、パターは結構あると思いますので、そこまで新しいとは思えませんでした。ユーモアさ、どでしょうね?最後の種明かしの部分にユーモアを感じられるか次第ですね。個人自にはこういう表現は好きではありません。苦手です。意外さ、ここも弱い。○○と思わせておいて実は△△だった。これをやられると読み手としては、嗚呼又か、と感じてしまいます。やはり、定型的なものに意外性をプラスするのは難しいですね。  53 愛犬タロウとの日常の描写から始まり、読者を安心させる一方で、最後に明かされ
	やま	タロウとの思い出	一般審査員I 一般審査員J 合計	10 18 130	10 17 134		18	10 19 124	るタロウの「白髪の老人」という事実が、全体を一変させる恐怖を生み出しています。最初は可愛らしい犬の思い出として読んでいたのに、現実と幻想が交錯するラストで背筋が凍ります。優しさや支惑と同時に、得体の知れない不気味さが静かに迫る短編で、日常の中に潜む恐怖を巧みに描いています。  88 ペットの話かと思っていたが、最後の人怖要素には、ゾッとさせる構成になっていたのが、非常によかった。
No 6	投稿者 バート&ニュータ	タイトルこだま	合計 評価者 一般審査員A	130 怖さ 17	134 鋭さ 16	新しさ	ユーモアさ	124 意外さ 15	合計 書評  79 霊的な存在のシカを殺そうとしたおじさんは食べられて、関係者だと思われたぼくは、コエを奪われた。いつまでもぼくのコエを使われるわけにはいかない! 取り込さなければ! そう、これはぼくとシカの、コエをめぐる、戦いの物語! ってし、う展開を予想します。普通の人は声を奪われたら、取り返そうとすると思います。フンタジーの序章としても使えると思いました。 経診として詩んでも、まあまあ面白い
	バート&ニュータ		一般審查員B 一般審查員C	6	7 15		6	8 16	思います。しかし、私はファンタジー展開を期待します。  34 なんか気をてらいすぎてわけわかんなくなってませんか。殺されそうになったから、ならわかりますがただ出会っただけで声もらうわって意味がわかりません。しかも、すでに喋ってるのに。  78 しかはなんだったのでしょうか。山の神?それとも妖怪?おじさんたちが殺され、しかの血肉になったであろう表現が、とても恐ろしく不気味でした。雪の白と血の赤る彷彿とさせる表記が、脳裏に鮮やかに場面を思い起こさせ素晴らしいと思いました。
	バート&ニュータ	こだま	一般審査員D	16	13	18	16	15	<ul> <li>彷彿とさせる表記が、脳裏に鮮やかに場面を思い起こさせ素晴らしいと思いました主人公は声を奪われたことで「こだま」という題名を選択されたのだと思いますが、個人的になんとなくしつくりこない感じがしました。こだまはこちらの声に対して同じ葉を返してくる事象なので。「命の代償」など、声を捧げたことで生き延びたことを説調するような題名が良いかな、と思いました。</li> <li>78 最後まで読んでこの形式で描かれているのが理解できました。子どもが日記を書しているような流れで平仮名が多く、鹿ではない別のものかと思いながら読んでいたそのまま鹿で思わず初めから読み直してしまいました。一人で雪山に行ったのかなのままをで思わず初めから読み直してしまいました。一人で雪山に行ったのかな</li> </ul>
6	バート&ニュータ		一般審査員E	10	5		10		ど、状況が省かれすぎていて理解に時間がかかってしまいました。 40 雪の森と「声を奪うシカ」という設定がとても魅力的で、世界観そのものに強いポテシャルを感じました。ですが、すでに会話をしているのに「声をもらう」という展開がし、「一世ので、恐怖へつながる流れが弱まってしまっている印象を感じました。せっかく骨を食む描写や、おじさんたちの失踪といった不穏な伏線があるので、奪われた「くの声」が次の犠牲者を森へ誘うなど、連鎖する絶望展開があっても良かったかもと思いました。
6			一般審査員F	17	16				82 秋になると、家の周辺でもよく鹿が鳴く声を耳にするので、鹿は割りと身近な存在として感じている。ただ、鹿に作物を食い荒らされた、というような話も聞くし、地域によっては害獣として駆除の対象となっているのも事実だ。鹿は基本的に草食だから人を食べる事はないだろうけど、現実ではあり得ないからこそ、鹿がおじさんらしき遺体をバリバリ食べていたと思うと怖くはある。その鹿は山の神様だったのでしょうか。声を奪われただけで命まで取られずに済んだと思えば良かったかもしれないですが。でも、自分の声が森から響いてくるのはやっぱり怖いですね。
6	バート&ニュータ		一般審査員G	12	14	13	13	13	ればよかったなというところですが、7つまでは神の子といわれますから、まだ7歳1 もなっていないという描写があればもっと良かったなと思います。声がなくなっただでは済まないのでしょう。幻想的で畏怖のような怖さがあるお話でした。「昔こういことがあったから冬の森には入ってはいけないよ。」というような、昔話を聞いたかような読後感があります。
6	バート&ニュータ バート&ニュータ		一般審査員H	1	4	J	3	J	
6 6	バート&ニュータ	こだま	一般審查員H 一般審查員I	11	10	11	10	10	しで見ると格別な新しさは、、。ユーモアさ、は私には分かりませんでした。人を食る描写でもう既に。「しか」のキャラクター付けもっとやっても良かったかも。意外さ、主人公は何故か「声」を奪われるという結末。いや、なんで?なんだか巻き込まれだけなのに、理不尽な話ですね。